

次号予告

特集 観光とOR

- ライフスタイルの側面に注目した旅行現象の分析 ……安達寛朗, 寺崎竜雄 (日本交通公社)
日本人の海外旅行と訪日外客の動向 ……田中 靖 (ツーリズムマーケティング研究所)
観光消費の経済効果の推計—観光統計の現状と TSA の登場— ……塩谷英生 (日本交通公社)
観光・旅行分野における顧客満足度調査について ……井門隆夫 (ツーリズムマーケティング研究所)
スキーマーケットの動向と展望 ……坂倉海彦 (エポソン)

編集後記

●今月号は、2001年2月号に続き、ゲーム論の特集です。今回は、ゲーム論が前提としてきた様々な制約をゆるめ、より現実的な状況をモデル化しようといういくつかの試みが紹介されました。今回は、ゲーム論が実際の状況表現、問題解決に直接どう役に立つのかを分析した研究を中心に特集を組みました。

●「そもそもゲーム論は現実の問題解決の役に立つのか」という疑問はよく聞かれます。これはゲーム論に限らず、ミクロ経済学や、OR、ひいては数理的にモデル化された社会科学理論すべてが抱え持つ、重大な問題であると思います。ゲーム論、ミクロ経済学、ORのように、ある意味成熟度の高い、「プロパーな」学問分野を研究されている方は、一見直接役に立つようには見えなくても、地道な貢献の莫大な積み重ねによって学問が成り立っているのだという静かな自信を

もっていらっしゃることが多いように感じます。

●しかし、私自身は、プロパーなORでも経済学でもなく、社会科学、心理学その他の境界領域の研究を続けてきましたので、自分のやっていることがアカデミズムの中でどう位置付けられるのか、どういう限界貢献をもつものなのか、そもそも何をやっているということになるのかといったことについて日々悩んでまいりました。悩む過程で、科学哲学を勉強したこともありましたが、自分のやっていることは、反証可能だろうか、再現性はどうか、パラダイムをもつか、リサーチプログラムの前進性という観点ではどうか、いろいろ考えてみましたが、自分自身で安心できる結論は出せておりません（もちろん、いわゆる「科学哲学」の観点からみれば、多くの社会科学は「科学」ではないということになるのでしょうか）。永遠に悩んでいきそうです。（松村良平）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 杉野 隆(国士館大学)

委員 井階美歩(株NTTデータ)、池上敦子(成蹊大学)、大澤義明(筑波大学)、大村弘之(日本電信電話(株))、岡田 勇(創価大学)、小沢利久(駒澤大学)、住田 潮(筑波大学)、高橋一喜(東京ガス(株))、土屋利明(日本電信電話(株))、所 健一(財電力中央研究所)、中川義之(キヤノンシステムソリューションズ(株))、中森眞理雄(東京農工大学)、生田日崇(専修大学)、根本俊男(文教大学)、廣津信義(獨日本スポーツ振興センター)、松村良平(東京工業大学)、三浦英俊(明海大学)、村井雅彦(株東芝)

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成16年12月号 第49巻 第12号 通巻528号

代表者 今野 浩

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

<http://www.orsj.or.jp/>

編集人 杉野 隆

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税込)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)へ